

平成 27 年度シンポジウム

「刻々と変化する緊急対応型地すべり・崩壊・落石事例とその教訓」

【シンポジウム趣旨】

近年、日本では度重なる大規模地震や局地的豪雨による斜面災害が多発し、これに携わる行政、コンサルタント、ゼネコンの役割が増大している。とりわけ、地すべり発生後にさらなる2次すべりの発生や地すべりの拡大が予想されたり、今まさに滑らんとし刻々と変化する地すべりや、崩壊・落石の危険がせまるとき、担当技術者には高度な技術力・判断力が要求される。しかしながら、一人の技術者がこのような緊迫する斜面災害に遭遇するのは一生のうち数度もない。

東北支部では上記に鑑み、このような迫真の現場に対応してきた技術者の報告から、得がたい多くの教訓と手法を学ぶとともに将来経験しうる緊急斜面災害に対し、シンポジウム参加者がこれらを経験知として冷静かつ適切に対処できる技術獲得を目的として本シンポジウムを開催するものである。

【テーマ】

刻々と変化する緊急対応型地すべり・崩壊・落石事例とその教訓

【開催概要】

日 時：平成 27 年 4 月 24 日（金） 14：40 - 17：30

場 所：仙台市戦災復興記念館

スケジュール：

13：30-14：30 支部総会

14：40-17：30 シンポジウム（参加費無料）

18：15-20：15 意見交換会

（仙台国際ホテル，参加費 7,000 円）

シンポジウム次第：

- | | |
|-----------|--|
| (1) 開会 | 14：40 |
| (2) 支部長挨拶 | 14：40 - 14：45 |
| (3) 基調講演 | 2008 年岩手・宮城内陸地震と 2013 年秋田・岩手豪雨災害への対応と教訓
大河原正文准教授（岩手大学） 14：45 - 15：15（30分） |
| (4) 講演 1 | 地すべり発生前の地盤変動兆候と発生機構の解釈が難しかった事例
－平成 19 年群馬県で発生した道路災害の事例－
鈴木滋氏（日本工営㈱） 15：15 - 15：30（15分） |

- (5) 講演 2 下北半島易国間地区における落石災害への対応について
能見忠歳氏（応用地質株） 15：30 - 15：45（15分）
- (6) 講演 3 肘折地区における緊急対応と崩壊予測
伊藤和広氏（奥山ボーリング株） 15：45 - 16：00（15分）
- (7) 講演 4 白石地区のある地すべりの崩壊予測と管理基準値
池田浩二氏（株東北開発コンサルタント） 16：00 - 16：15（15分）
- (8) 休憩 16：15 - 16：25
- (9) 総合討論
司会：濱崎英作氏，渡辺 修氏 16：25 - 17：30（65分）
- (10) 閉会 17：30